

■2024年度 日本活断層学会論文賞

【受賞者】田力 正好・越後 智雄

【論文名】十日町断層帯と長野盆地西縁断層帯の境界部に発達する活断層群の認定とそのテクトニックな意義

【掲載誌】活断層研究, 56号, 33頁～46頁

【選考理由】

新潟・十日町断層帯の南端部と長野盆地西縁断層帯の北端部に挟まれる地域では、それらを接合するように分布する確実度 II の活断層が報告されていた。その後、この地域では 2011 年東北地方太平洋沖地震発生の翌日 3 月 12 日に M6.7 の長野県北部地震が発生しており、活断層・地震の両研究分野にとって関心を集める地域であった。本研究はこの地域について、詳細な空中写真判読と現地調査により断層変位の根拠となる変動地形を示し、それらをもとに新たに発見・命名した「赤沢断層群」を含む活断層の詳細な位置形状と平均変位速度を明らかとした点で、活断層研究分野での学術的な価値は高い。さらに、これらの活断層のテクトニクス的位置づけを考察する中で提示された十日町断層帯および長野盆地西縁断層帯との関連性についての 2 つのモデルは、この地域の地震ハザードを高度化する中で活断層研究だけでなく関連分野にとっても示唆に富む内容と言える。上記 3 月 12 日の地震と本研究で対象とした活断層の関連がすべて明らかにされたわけではないことの明記と課題が提示されている点も、この地域の活断層・地震の両分野にまたがる今後の研究において意義深い。

以上の理由により、一般社団法人日本活断層学会の 2024 年度論文賞を授与するものである。